

別記書式 2

教員要件及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1 - 1】専任教員の配置状況

学科等の名称	専任教員数						非常勤 教員	専任教員 一人あたりの在籍 学生数	備考
	学科長	主任 教員	教員	計	基準数	うち 言語聴 覚士数			
言語聴覚学科 昼間部	人	人	6人	6人	5人	6人	40人	18人	
言語聴覚学科 昼夜間 部	人	1人	3人	4人	4人	4人	25人	7人	
計	人	1人	9人	10人	9人	10人	人	—	

【自己評価 1 - 2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	言語聴覚士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	言語聴覚士である専任教員の配置数が適正である。	2
	言語聴覚士である専任教員の人数が適切でない。	1

【自己評価 1 - 3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	すべての養成所指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成所指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成所指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である	1

【自己評価 2 - 1】 養成所指導ガイドラインとの連動状況（昼間部）

分野（基礎・専門 基礎・専門）	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎分野	社会科学 二科目	障害児教育学	1	永野 淳子	兼任
	外国語	医学論文	1	秋吉 留李	専任
	科学的思考の基礎、人間と生活、社会の理解、言語聴覚療法の基盤	社会人基礎力講座Ⅰ (GCBⅠ)	1	井上 聖子	専任
		社会人基礎力講座Ⅱ (GCBⅡ)	1	井上 聖子	専任
		初年次教育セミナーⅠ	1	秋吉 留李	専任
		初年次教育セミナーⅡ	1	秋吉 留李	専任
		情報処理	1	平井 智子	兼任
		倫理学	1	今泉 晴行	兼任
		教育方法	1	星子 隆裕 他	兼任
		コミュニケーション学	1	高柳 希	兼任
		言語聴覚療法推論Ⅰ	2	秋吉留李他	専任
専門基礎 分野	基礎医学	医学総論	1	大久保史子 ほか	兼任
		基礎医学講座	1	星子 隆裕 ほか	兼任
	臨床医学	内科学（老年医学含む）	1	眞崎 義憲	兼任
		小児科学	1	大久保史子	兼任
		臨床医学講座	1	三田智巳ほか	専任
		リハビリテーション医学/一般臨床医学	1	飯塚病院職員	兼任
	音声・言語・聴覚医学	専門基礎講座	1	高津原直樹 他	専任
	心理学	臨床心理学	1	富永 明子	兼任
		生涯発達心理学の演習	1	福島 志津	兼任

		学習認知心理学の理論	1	大森 晶子	兼任
		学習認知心理学の演習	1	大森 晶子	兼任
		心理測定法	1	井上 仁郎	兼任
	言語学	応用言語学	1	高津原直樹	専任
	社会福祉・教育	リハビリテーション概論	1	秋吉 留李	専任
		社会保障制度（関係法規含む）	1	小川 春美	兼任
	人体のしくみ・疾病と治療	解剖学	1	佐藤 敦子	兼任
		生理学	1	坂口 博信	兼任
		病理学	1	自見 至郎	兼任
		解剖生理学	1	八木 智大	兼任
		臨床医学Ⅰ	2	星子 隆裕 他	兼任
		臨床医学Ⅱ	2	工藤 康介 他	兼任
	心の働き	心理学	1	安達 都耶子	兼任
		学習認知心理学Ⅰ	1	渡辺 沙織	兼任
		生涯発達心理学	1	福島 志津	兼任
	言語とコミュニケーション	言語学	1	高津原 直樹	専任
		応用言語学	1	高津原 直樹	専任
		音声学	1	八木 智大	兼任
		応用音声学	1	八木 智大	兼任
		音響学	1	藤井 忍	兼任
		聴覚心理学	1	藤井 忍	兼任
		言語発達学	1	福島 志津	兼任
専門	言語聴覚障害学総論	言語聴覚療法の評価・診断	1	高津原直樹	専任
		地域言語聴覚療法	1	井上 宜彦	兼任
		言語聴覚マネジメントと研究法	1	星子 隆裕	兼任
		国家試験対策セミナー	1	八木智大他	兼任

	言語聴覚障害学総論	言語聴覚療法基礎	1	潮崎 桃子	専任
	失語・高次脳機能障害学	失語症の理解	1	高津原直樹	専任
		失語症の展開	1	高津原直樹	専任
		高次脳機能障害の理解	1	井上 聖子	専任
		高次脳機能障害の展開	1	井上 聖子	専任
	言語発達障害学	知的障害の展開	1	三田 智巳	専任
		脳性麻痺・後天性障害の展開	1	藤川 貴子	兼任
		ASD・ADHDの展開	1	三田 智巳	専任
		LD・SLI・環境要因の展開	1	永野 淳子	兼任
	発声発語・嚥下障害学	音声障害の理解と展開	1	山口 優美	兼任
		機能性構音障害の理解と展開	1	今村 亜子	兼任
		器質性構音障害の理解と展開	1	城丸みさと	兼任
		運動障害性構音障害の理解	1	潮崎 桃子	専任
		運動障害性構音障害の展開	2	潮崎 桃子	専任
		摂食嚥下障害の理解	1	八木 智大	兼任
		摂食嚥下障害の展開	2	八木 智大	兼任
		拡大代替コミュニケーション学	1	今村 亜子	兼任
		吃音の理解と展開	1	仲野 里香	兼任
	聴覚障害学	成人聴覚障害の診断	1	星子 隆裕	兼任
		小児聴覚障害の支援	1	井上 康子	兼任
		成人聴覚障害の支援	1	緒方 啓一	兼任
		補聴器人工内耳	1	星子 隆裕	兼任
		視聴覚二重障害	1	星子 隆裕	兼任
臨床実習	臨床実習Ⅰ	4			
	臨床実習Ⅱ	8			
選択必修		画像診断学	1	鈴木 陸	兼任

		臨床技術学Ⅱ	1	潮崎 桃子	専任
		臨床技術学Ⅲ	1	高津原直樹	専任
		臨床技術学Ⅳ	1	高津原直樹	専任
		評価演習	3		
専門分野	言語聴覚 障害の評 価診断・ 治療学	失語高次脳機能障害学 Ⅰ	1	江崎 万里 子	兼任
		失語高次脳機能障害学 Ⅱ	1	江崎 万里 子	兼任
		言語発達障害学Ⅰ	1	三田 智巳	専任
		言語発達障害学Ⅱ	1	渡辺 沙織	兼任
		発声発語障害学Ⅰ	1	潮崎 桃子	専任
		発声発語障害学Ⅱ	1	潮崎 桃子	専任
		聴覚障害学Ⅰ	1	飛松 葉子	兼任
		聴覚障害学Ⅱ	1	井上 康子	兼任

【自己評価 2 - 1】 養成所指導ガイドラインとの連動状況（昼夜間部）

分野（基 礎・専門 基礎・專 門）	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 （専任・兼任）
専門基礎 分野	基礎医学	医学総論	1	安藤 廣美ほ か	兼任
		基礎医学講座Ⅱ	1	三田 智巳	兼任
	人体の仕 組み・疾 病と治療	医学総論	1	星子 隆裕	専任
		解剖学	1	佐藤 敦子	兼任
		生理学	1	佐藤 敦子	兼任
		病理学	1	自見 至郎	兼任
		解剖生理学	1	八木 智大	専任
		臨床医学Ⅰ	2	星子 隆裕 他	専任
		臨床医学Ⅱ	2	工藤 康介 他	兼任
		臨床医学Ⅲ	2	大久保 史子 他	兼任

		臨床医学V	1	片岡 彩子 他	兼任
専門基礎 分野	音声・言 語・聴覚 医学	呼吸発声発語系の構造 機能病態	1	三田 智巳 ほか	兼任
		聴覚系の構造機能病態	1	星子 隆裕 ほか	専任
		神経系の構造機能病態	1	工藤 康介	兼任
	心理学	臨床心理学	1	富永 明子	兼任
		心理測定法	1	井上 仁郎	兼任
	心の働き	心理学	1	安達 都耶 子	兼任
		臨床心理学	1	富永 明子	兼任
		学習認知心理学I	1	渡辺 沙織	専任
		学習認知心理学II	1	渡辺 沙織	専任
		生涯発達心理学	1	福島 志津	兼任
		心理測定法	1	井上 仁郎	兼任
	言語学	応用言語学	1	高津原直樹	兼任
	音声学	応用音声学	1	増田 正彦	兼任
	音響学	応用音響学	1	大戸 直也	兼任
	言語とコ ミュニケ ーション	言語学	1	高津原 直 樹	兼任
		音声学	1	増田 正彦	兼任
		応用音声学	1	増田 正彦	兼任
		音響学	1	井上 仁郎	兼任
		言語発達学	1	福島 志津	兼任
	社会福 祉・教育	社会保障制度・関係法 規	1	小川 春美	兼任
専門分野	言語聴覚 障害総論	言語聴覚マネジメント と研究法	1	一木 麻美	兼任
	言語聴覚 障害学総 論	言語聴覚療法基礎	1	潮崎 桃子	兼任
	失語・高 次脳機能 障害学	失語症の展開	1	高津原直樹	兼任
		高次脳機能障害の展開	1	井上 聖子	兼任

	言語発達障害学				
		脳性麻痺・後天性障害の展開	1	山口真理恵	兼任
		ASD・ADHDの展開	1	三田 智巳	兼任
		LD・SLI・環境要因の展開	1	永野 淳子	兼任
	発声発語・嚥下障害学	音声障害の理解と展開	1	山口 優美	兼任
		器質性構音障害の理解と展開	1	城丸みさと	兼任
		摂食嚥下障害の展開	1	八木 智大	専任
		拡大代替コミュニケーション学	1	山口真理恵	兼任
		吃音の理解と展開	1	福島 志津	兼任
	聴覚障害学	小児聴覚障害の支援	1	井上 康子	兼任
		成人聴覚障害の支援	1	中島 栄子	兼任
		補聴器・人工内耳・視聴覚二重障害	1	星子 隆裕	専任
	言語聴覚障害の評価診断・治療学	失語高次脳機能障害学 I	1	江崎 万里子	専任
		失語高次脳機能障害学 II	1	江崎 万里子	専任
		言語発達障害学 I	1	三田 智巳	兼任
		言語発達障害学 II	1	渡辺 沙織	専任
		発声発語障害学 I	1	八木 智大	専任
		発声発語障害学 II	1	八木 智大	専任
		聴覚障害学 I	1	星子 隆裕	専任
		聴覚障害学 II	1	井上 康子	兼任
障害児教育学		1	永野 淳子	兼任	
地域言語聴覚療法学		1	井上 宜彦	兼任	
臨床実習	臨床実習 II	3			
	臨床実習 III	8			

【自己評価 2 - 2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成所指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成所指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成所指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2 - 3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を概ね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3 - 1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成所指導ガイドラインに従った臨床実習を実施している。	4
	養成所指導ガイドラインに従った臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成所指導ガイドラインに従った臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成所指導ガイドラインに従った臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3 - 2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実施する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

昼間部

臨床実習の見学又は実施する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
早期臨床体験見学 医療提供施設及び福祉施設など	1年後期	言語聴覚療法基礎	1年前期
		失語高次脳機能障害学Ⅰ	1年前期
		言語発達障害学Ⅰ	1年前期
		発声発語障害学Ⅰ	1年前期
		聴覚障害学Ⅰ	1年前期
評価演習 医療提供施設及び福祉施設（老人保健施設、老人福祉施設、児童福祉施設）などで評価の実践	2年後期	言語聴覚療法の評価・診断	2年後期
		失語症の理解	2年前期
		高次脳機能障害の理解	2年前期
		運動障害性構音障害の理解	2年前期
		摂食嚥下障害の理解	2年前期
		成人聴覚障害の診断	2年前期
		小児聴覚障害の支援	2年後期
		臨床技術学Ⅱ	2年後期
臨床実習Ⅰ・臨床実習Ⅱ 医療提供施設及び福祉施設（老人保健施設、老人福祉施設、児童福祉施設）などで評価・治療の実践	3年前期	臨床技術学Ⅲ	3年前期
		失語症の展開	2年後期
		高次脳機能障害の展開	2年後期
		運動障害性構音障害の展開	2年後期
		摂食嚥下障害の展開	2年後期
		臨床技術学Ⅳ	3年後期

昼夜間部

臨床実習の見学又は実施する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
臨床実習Ⅱ・臨床実習Ⅲ 医療提供施設及び福祉施設（老人保健施設、老人福祉施設、児童福祉施設）などで評価・治療の実践	2年後期	失語症の展開	1年後期
		高次脳機能障害の展開	1年後期
		知的障害の展開	1年後期
		運動障害性構音障害の展開	1年後期
		摂食嚥下障害の展開	2年前期
		聴覚障害の検査	1年後期
		成人聴覚障害の支援	2年後期

【自己評価 3 - 3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な臨床実習指導者の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な臨床実習指導者の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3 - 3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な臨床実習指導者の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な臨床実習指導者の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3 - 4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 3 - 5】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習の実施に当たっては、臨床実習施設との緊密な連携体制をもって、ハラスメントの予防に努めている。	4
	臨床実習の実施に当たっては、臨床実習施設との緊密な連携体制をもって、ハラスメントの予防におおむね努めている。	3
	臨床実習の実施に当たっては、臨床実習施設との緊密な連携体制をもって、ハラスメントの予防に十分に努めてられていない。	2
	臨床実習の実施に当たっては、臨床実習施設との緊密な連携体制をもって、ハラスメントの予防に努めていない。	1

【自己評価 4 - 1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制を記入してください。

自己点検・評価組織名	自己点検・評価実施委員会
委員名（委員長）	田中 裕二（校長代行）
組織の開催頻度	1年に1回
組織の取り組み内容	自己点検・評価の実施および結果の公表基準
	学校関係者評価委員会：教育内容改善のための検討会の実施
	第三者評価：リハビリテーション教育評価機構（JCORE）の受審
自己点検・評価結果の公表	HPで公表 （ URL https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/arc/2024/self-assessment.pdf ：）

【自己評価 4 - 2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する仕組み	名称	シラバス検討委員会
	委員構成等	校長代行・各学科主任・副主任・リーダー
	改善の仕組みの実際	各学科会議での検討事項を学校全体で決定

【自己評価 4 - 3】 自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

毎年、自己点検・評価実施委員会での評価結果をもとに、改善計画書を作成し課題の改善に努めている。第三者評価としてリハビリテーション教育評価機構（JCORE）の認定を受けている、今後も継続し、教育内容・教育設備等の充実化を図っていく。
